

○目標

- ・ それぞれが任された立ち位置、クラス担任など、学びながら一年間が楽しくなるようにと期待と見通しを持った目標がたてられている。
- ・ 保育者との連携はもちろん、保護者との関係づくりなど“つながり”を大事に。
- ・ 大きな事業である園舎建設に向けて尽力を尽くす。

○上半期自己評価

- ・ 行事(夏祭りなど)を経験し、地域の方に見守られ一緒に子どもたちを育てていると強く感じた。保育内容を自分で考えることが増え保育の楽しさを感じる反面、うまくいかないこともあり反省点が多く次に活かしたい等、経験を通して感じたこと、実践しての反省など若い職員から出されていた。また、学んだことで視点が変わったり、保育に見通しが持てるようになった等、学ぶことの大切さを感じたようだった。
- ・ 心の余裕がない、自分の思いが強くなった時などの子どもへの関わりでの反省が多く、見守る事、待つこと、尊重することを大切にしていこうと思いが出されていた。
- ・ 代替職員、クラス担任、他職員との連携、信頼関係づくりでは、一人ひとりの努力が感じられた。保護者との関係でも苦手意識もあるが、コミュニケーションを大事にしていきたいと前向きな反省もあった。
- ・ 今年の夏は水の事故のニュースが多く、毎日プール活動がある中では注意が必要。
- ・ 建設に向けてカンパ等のやり方が具体的になってきた。職員同士で知恵を出し合い目標・11月の会に向けて近づけるようにしていく。

○今後の課題・目標

- ・ 上半期目標のやり残したところ、反省を振り返り上半期の目標の継続を目標にする職員が多い。また、上半期の保育の中で感じた、保育も建設も職員の連携が不可欠、子どもが何を求めているのか、主人公になれているか、子どもたちに合った活動、5才でつけてほしい力を考え行事に取り組む、“間を大切に”など保育をしながら新たな目標、課題が出されている。
- ・ 学び・学習については保育士・看護師・栄養士など職員皆が自分の向上、スキルアップの姿勢が強いことが伺えた。
- ・ 建設に向けてでは、お別れ会やカンパ活動に力を入れていく。

○下半期自己評価

- ・ 各年齢の発達の学び、研修で学んだことを保育に活かす、子どもの悩み・姿の共有、子どもの思いを尊重する等、子どもの事についてやクラスの保育をどうしていくか等話し合い、保育してきたことが伺えた。また、他職員間の連携をそれぞれが努力しているが、相手がどう感じる…(相手の立場になって)と考え、言いづらさや伝え方の難しさに悩む職員も多い。

- ・ クラスだけでなく全体の状況把握をする点でも難しさもあるが、園全体で取り組み、できてきているように感じる。
- ・ 保育の継承・新しいことを取り入れること、どちらも大事。継承とは何なのか、保育のどこを大切にしていけるのかを職員間で話し合いを持てるとよかった。
- ・ 建設については、“お別れ会”への取り組みなど職員が一丸となれたと感じている職員も多いが、その後、進んだ感がなくもっとできることはないのかと考えている職員もいる。

○日ごろ感じていること

- ・ 子どもが作り出す主体、学ぶ主体になっているか。ここで保育していく上で保育者にとって大切な視点になっているか考えていきたい。
- ・ 自分が辛いとき、悲しい時どう乗り越えるか。毎日考えながら仕事をしている。
- ・ 自分の健康を守る。生活予防。体調管理。
- ・ 中堅で話した事など全体に返していく。
- ・ 保育をする中で、“あの時こう伝えればよかった”ということがほとんど、“後になっても伝えてみる”などして克服したい。
- ・ 大変な時に大変ということは難しい。一人で背負い、何も言わないで大丈夫なふりをする。相手がどう思うか、何か言われたらと思うと言えない。どうしたらいいのか。
- ・ 権利（有休・休憩・事務保障）と義務（任されていること）のころ合い！？が難しい。

○まとめ

職員皆が自分の目標を達成しようと努力する姿があった。なかなかうまくいかない、すぐに結果は見えないためこれでいいのかと悩み、他職員のアドバイスをもらい、自分を振り返り前向きに保育していると感じる。その中で、相手の思いを汲み取れない、逆に相手がどう思っているのかが気になり思いを伝えられない等で悩む職員も多かった。職員が何でも話し合える、楽しく保育しているそんな関係であれば、全て“こどもにかえる”と皆で確認しより良い職員集団になると良いと感じる。また、子どもが主体になった保育ができていくのか、各年齢で大事にしていく保育活動とは…保育の中見について話し合っていく必要も感じた。